

コンテストに応募した際は、審査員の一人から「この写真は加工しているのですか?」との問い合わせが入ったが「フィルムを見ていただければ分かる」と自信を持って独自の撮影術を説明した。納得していただく「結果を楽しみにしておいてください」と最後に一言。平成19年にJPS展(日本写真家協会展)の最高賞、文部科学大臣賞を受賞する。

『心』で撮る

ピンホールカメラのシャッターは、黒い板で穴を隠し、それを左右に動かすことで針穴から光を取り込む。通常ならば早くても1/8秒程度のシャッタースピードを、オリジナルアイテムで1/15秒に短縮した。

写る絵を想像し、被写体の音を聞き、訪れるその一瞬に全神経を集中させる。「目で撮るんじゃなくて『心』で撮るんです。その瞬間といたらもう命がけの形相ですよ(笑)」

不可能を可能に

不可能といわれることに挑戦する。そこに大きな醍醐味を感じている。

「実は使用するフィルムの生産がストップしてしまったので、今では撮影することすら困難なんです。でもそれもまたチャレンジの種。新しい発想で乗り越えていきたい」

昭和24年生まれの65歳。「年を感じさせませんね」と問いかけると「年を重ねるたびに気持ちは若返っていくんです」と笑顔。神田さんの次の目標は、ヨーロッパで個展を開催すること。頑張ってください、神田さん。報告を楽しみに待っていますね。



▲2007年 JPS展 文部科学大臣賞受賞作品(4枚組のうちの1枚)



▲2010年 JPS展 銅賞受賞作品(4枚組のうちの1枚)

神田 和幸・プロフィール

1949年 広島県生まれ(淀川区在住)の65歳。ピンホール写歴10年。2004年4月から、ピンホール撮影では不向きといわれている動くもの、飛行機や熱気球の撮影に成功。ピンホール倶楽部所属。

【経歴】

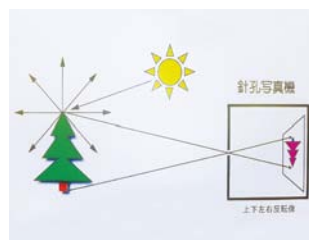
- 2006年 個展(ピンホール写真)富士フォトサロン/大阪
- 2006年 日本カメラ月例コンテスト(カラー部門)金賞受賞
- 2007年 JPS(日本写真家協会)展「文部科学大臣賞」受賞
- 2010年 個展 中国大連芸術展覧館「夢飛行-神田和幸針穴写真展」
- 2014年 ATC(アジア太平洋トレードセンター)「ピンホール写真展」
- 2015年 ヨーロッパにて「ピンホール写真展」開催予定

0.2mmから 広がる世界

ピンホールカメラの仕組み

どうやって写るの?

ピンホールカメラの仕組みはとてもシンプル。太陽の光が反射して暗箱の中に入り、フィルムに映し出される。



(日本針穴写真協会マニュアル本より)

0.2mmの小～さな穴

見えますか?0.2mmの穴。太陽にかざすと小さな光の点が見えます。ここから光を取り込みます。



フィルムをセットして

光を吸収しやすい高感度のフィルムを取り付けます。メーカーによっては生産中止し、入手困難な状況となっています。



神田さんオリジナル撮影術

黒い厚紙に四角形の穴を開けた神田さんオリジナルシャッターシート。1/15秒でジェット機を捉えます。

